

きらぼ通信

第10号（2013年6月）

明星大学ボランティアセンター（愛称：きらきらボランティアセンター）

特集1：ボランティアセンター5周年を迎えて



ボランティアセンターへの期待

小川哲生

（明星大学学長/教育学部教育学科教授）

明星大学ボランティアセンターが開設されてから5年を経過することになりました。人文学部人間社会学科教授の渡戸一郎先生にセンターをお願いしてから5年間の同センターの発展には特筆すべきものがあると認識し、深く感謝しております。本学学生は伝統的にボランティア活動に熱心でしたが、長い間それらを束ねる組織がなく、その結果、ボランティア活動をしたいと願っている学生への情報提供等が十分にできませんでした。同センターが設立されて以来、同センターの活躍により潜在していた学生の願いが大きく実現し、更に、3・11以降ボランティア活動参加への大きな流れがあり、本学学生のボランティア活動はますます大きくなってきたと思います。同センターが定期

的に発行している『きらぼ通信 第9号』によれば、ボランティアセンター登録団体だけで19団体あり、学外の提携している団体数は97団体になります。この数字を見ただけでも、いかに同センターのこの5年間での発展を果たす役割の大きさが分かりますと思います。

困っている人たちに対し、「無償」で役に立ちたいと願う気持ちは、全ての人が生まれながらに持つ心情であると思います。個人の生き方がより尊重されていくのが現代の流れですので、その分の他者への「愛」が必要であることは言うまでもないことです。社会に何らかの形で貢献したいと願う者に対し、その機会を提供していく役割を担う組織としてボランティアセンターがあります。ボランティアセンターのますますの活躍を期待しています。



きらボ5年の歩みと課題

渡戸一郎(ボランティアセンター長・人文学部人間社会学科教授)

「明星大学にボランティアセンターを」という声は、学内で10年くらい前から高まってきましたが、それがいよいよ学長への答申を経て実現したのは、2008年5月のことでした。この過程で大きな力となったが、垣内国光教授(現福祉実践学科)を座長とする諮問委員会のメンバーと、答申を受けて即座にセンター開設を支持した小川哲生学長でした。そして、答申に際して私が「活動を通して学生一人ひとりが輝く」という意味で「きらきらボランティアセンター」という愛称を提案したところ、図らずもそのまま承認され、以後、略称「きらボ」となりました。センターには2名の専任職員が配属されて(現在は職員3名と勤労奨学生)、学生が来室しやすい雰囲気づくり、登録の呼びかけなどを開始しました。2年目の春には、センター開設1周年記念のシンポジウム「大学発：市民力へー地域とむすぶ学生ボランティア活動の可能性ー」を開催し、近隣地域への働きかけの強化も図りました。

私は人間社会学科の教員として、当時、人文学部共通科目の「市民活動論」(現「社会運動論」)を担当していましたが、それとは別に、全学共通科目に「ボランティア論」(2単位、選択科目)を新設していただきました。以後、この両科目の受講者は順調に伸び、学生の関心の高まりを感じます。今年度はさらに「ボランティアの単位化」の可能性を探るべく、全学規模での検討委員会を開催していただいています。

2011年の東日本大震災を受けて、きらボは、いわき市への支援活動を含め、災害ボランティア活動に参加する学生たちの支援や報告会の開催等に取り組んでいます。震災2年目の昨春には、シンポジウム「いま被災地支援に望まれること」を、いわき明星大学ボランティアセンターとの共催、日野市社会福祉協議会の後援で実施できましたが、時間的経過のなかで被災地支援の形が問い直されていることが、浮き彫りになりました。

きらボには学生ボランティア団体に留まらず、さまざまな学生たちが毎日出入りし、活気ある賑やかな場となっています。また、そうした雰囲気の中から新たなボランティア団体が生まれてきていることは、本当に喜ばしいことです。地域の市民団体や自治体等とのつながりも着実に広がり、日頃からのご協力・ご支援・ご指導に心から感謝しております。

この5年間、ボランティア活動を通じて学生たちが、座学では得られない社会性と創造性を身につけ、たくましくなっていく姿を見てきましたが、卒業後の生き方にも、学生時代に取り組んだ活動から得た経験が活かされていくことを期待しています。その意味で、学生たちが「善き市民」(good citizen)であるだけに留まらず、活動を通じて課題を発見し、考え、それを行動につなげうる「積極的な市民」(active citizen)になりうるような、支援のあり方を追求していくことが、きらボの最大の課題だと考える次第です。



学生ボランティアの可能性（環境保全活動を中心にして）

吉澤秀二（副センター長・理工学部総合理工学科環境・生態学系教授）

大学の存在意義として、伝統的な「教育」と「研究」に「地域・社会貢献」が加わり、社会に対する新たな役割が期待されています。地域・社会貢献の機能は、産学官連携とボランティア活動から成り立っています。

大学構内で行われている環境ボランティア活動として、湧水に飛ぶ蛍の保護活動や、「Idear 研究会」を中心とした、ペットボトルのキャップを集め、海外の子供達にワクチンを提供する「エコキャップ運動」があります。

学外では、緑の保全活動が中心になります。東京都の「グリーン・キャンパス・プログラム」に基づき、東京都、日野市と協定し、環境団体「緑地管理ボランティアの会」のご指導のもと、日野東光寺緑地保全地域において、竹の伐採や下草刈

りの作業を行っています。また、あきる野市菅生地区において、あきる野市、NEC フィールドイニング(株)と協定し、「NPO ふるさとの森づくりセンター」のご指導のもと、植樹や草刈りによる森づくりの活動を行っています。これらの活動は、「クローバー」が中心のボランティア活動です。

学生がボランティア活動を通して地域社会とつながり、“おとな”の人々とのコミュニケーションの中から得た驚きの体験が、学生諸君を“おとな”にします。世界の環境問題を解決するためには、地域社会の環境問題を解決する活動を、地道にしかも確実に継続することしかないことを、理解することでもあります。学生は、行き詰った時には環境団体の方と対話し答えを見つけるために、コミュニケーション力が重要であることも認識できます。



私達の誇りボランティアセンター

元ボランティアセンター課長（現法人本部嘱託） 宮崎茂男

私が『きらボ』でお世話になったのは、H20年9月からの約2年間でした。実践躬行による「体験教育」を教育の原点とする明星教育の手本とも言うべきボランティアセンターを今でも大きな誇りに思っています。

H20年10月に実施した「第1回夏のボランティア活動報告会」の様子が読売新聞社の記事に掲載されて、世間の注目を集め出し、同年12月にはボランティアサークル「ひまわり」がソニーマーケティング学生ボランティアファンドに初入選を果たした頃から活動が波に乗り始めま

した。

H22年1月にはNPO法人「やまぼうし(伊藤勲理事長)」の暖かいご支援を得て、学生達の長年の夢であった学生カフェ「Star☆Shops」が心理4年松田玲奈さんや建築4年藤村真子さん達(学年は共に当時)を代表とする学生達の情熱と努力でオープンした時の喜びは今でも鮮明に心に残っています。

当時接した学生の皆さんの熱心で真摯な活動姿勢は、今も泉田正悟君(日文3年)をリーダーとする「MCAT」の皆さん達にしっかりと引き継がれ、「教育の明星」と並んで「ボランティアの明星」と評される程に発展充実していることを頼もしく感じています。

「運営委員からの一言提案」

軌道に乗ったボランティア活動

安田 満(経済学部経済学科准教授)

明星大学ができて間もないころは、ボーイスカウト(男子)・アダルトスカウト(女子)がクラブ活動として存在し、学内の業務に関する手伝いなどを行っていました。いわゆる学内の「奉仕活動」と言えるでしょう。しかし、ふと気が付くとその様なクラブ活動は姿を消していました。その後、何年か経過し5年前から今度は「学外奉仕」を中心として時代に順応したネーミングで「ボランティアセンター」ができ現在活発な活動を行っています。

このように「言い回し」や「ネーミング」は、時代に合うように変わっても、学生たちが少しでも大学や社会のために「自分たちは何か役に立てることはないのか」と考え、その目的を達成するための「奉仕活動」を行う姿勢は変わっていないということを実感します。「継続は力なり」と言われているように、今後も大学の歴史とともにボランティアセンター「きらボ」の成長に期待します。

ボランティアセンター5周年によせて

赤山 徹(明星大学事務局長)

向こう三軒両隣、私が子供の頃には隣近所が困ったときに助け合うという風土が日本にはまだありました。その頃はボランティアという考えはないけれども事実上助け合いの精神が日本人の精神性として根付いていたと思います。しかし、時代の変遷と共にこの意識が薄れていったのも

事実です。東日本大震災を目の当たりにし、学生たちの「何かしなければならぬ」という純粋な気持ちは、私たち日本人が精神の深いところに持っていた助け合いの精神が膨らんできたことだと思います。「無理せず、気長に、できることから少しずつ」助け合いが当たり前になる世界に！

一生の宝

吉川和博(青梅事務室)

多摩地区でのボランティア要請は年を追う毎に拡大しています。その中で、地域ボランティアへの参加を、個から組織へ。そして、東日本大震災では、ボランティアへ向かう学生達へ情報提供や安全確保など、ボランティアセンターは活動支援に欠かせない存在となりました。

学生諸君は、身の丈に応じた活動を継続し、安

全・安心、そして楽しい地域づくりに貢献してください。そこで得た経験・人脈は一生の宝となります。

今後も、ボランティアセンターを情報の収集・発信基地として、学生たちの充実した活動に期待します。

きらボに集う学生たち ～きらボへのメッセージ～

山城悠也「マアム」教育学科3年

「大学へ入学したら色々な活動を始めたい！」そんな思いから、私はきらボを訪ねたのでした。きらボでは様々な団体が活動をしており、自分のやりたいことがすぐに見つかりました。団体へ入ると活動の輪が広がり、個人で活動をしていた頃とは比べものにならないほど活発的になりました。今では自分の特技を活かして、各地で大道芸を披露しています。夢の福島県でのパフォーマンスも実現できました。私にとってきらボは、「なりたい自分になれる場所」です。

永野有華「ひまわり」教育学科3年

大学に入学してから今まで、きらボにはずっとお世話になってきました。きらボはいつ行っても、職員さんや勤労生の学生さんが笑顔で温かく迎えてくれます。私はボランティアサークルひまわりに所属しているのですが、サークルの相談をいつも親身になって聞いてくださって、力を貸していただいて本当に感謝しています。それだけでなく、いろいろなボランティアを紹介してくれたり、アットホームな雰囲気の中で学生同士が交流できる場でもあり、そんなきらボが私は居心地がよくてとっても好きです。

泉田正悟「MCAT」日本文化学科3年

私がきらボボランティアセンターに足を運んだのは、震災から二ヶ月後の5月、故郷である福島を離れることになった自分にもできることがあるはずとの思いがあったからでした。今では防犯ボランティアのMCATに入隊し、忙しくも充実した学生生活を過ごしています。心通わす友がいて、これほど素晴らしい日々があるのはきらボのおかげであると実感するとともに、多くの方に支えられていることを胸に刻み、社会に貢献できるようこれからも邁進していくことをボランティア活動を行う明星大学学生を代表して宣言いたします。

村野龍之介「めばえの会」福祉実践学科3年

自分が初めて「きらボ」に来たのは、入学して間もない頃、ボランティアサークルの説明を聞くために訪れた時でした。大学の休み時間や授業の合間に「きらボ」に行くようになってから、他の学部、学科の先輩、後輩、同期の方と交流するようになり、自分が所属しているサークルとはまた違ったボランティア活動を行っている団体とも接するようになりました。

今では「きらボ」は自分にとってかけがえのない“交流の場”です。

神崎歩「勤労生」教育学科3年

勤労生として約3年間きらボで働いていますが、きらボはいつも人がたくさんいて和気藹々としています。それは職員さんやいつもいる学生さんの「迎える心」があるからこそだと私は感じています。ボランティア情報も今まで以上に充実しており、ボランティア情報を求める学生にとってまさにきらボは「宝庫」だと思います。

きらボは5周年を迎え、今まで以上に活気あふれた部署となるよう勤労生としてできることをしていきます。

「きらボにつながる地域からの期待」 ～学生の熱意と行動が市民を動かす～

大場 主雄 日野市社会福祉協議会事務局長 日野市ボランティア・センター
5周年記念おめでとうございます。

日野市社会福祉協議会は、昨年「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2012in 日野」というがん撲滅を願うチャリティウォークイベントを通じて、きらボの皆さんの「5年間の成長」を感じました。今回、私たちは日野市初・冬季開催全国初という「初ものづくし」の挑戦でありました。「24時間襷をつなぎ歩み続ける」という大きな目標を達成し、イベントを大成功のうちに収めることができました。きらボの若い力が大きな光を放ち活躍していただきました。特に深夜から早朝にかけて、最も過酷な時間帯のウォーキングでそのチカラを遺憾なく発揮していただきました。日野市で

活動する私たちにとって、「きらボ」の存在は日に日に大きくなっていくとともに、身近な地域にこうした仲間がいることは誇りであります。

2年前の東日本大震災は、凶らずも私たち日本人が「ボランティア活動の意義」を見つめ直すきっかけとなりました。ボランティア活動は地域に大きく貢献するばかりでなく、これから社会に羽ばたくきらボの仲間にとって大きな成長のきっかけとなることは間違いありません。地域を明るく照らす「きらボ」に乾杯！「日野市の明るい星」に乾杯！

久保田 博之 日野市 環境共生部 環境保全課副主幹
ふだん着でCO2をへらそう実行委員会 事務局長

日野市では、地球温暖化対策として平成20年度から「ふだん着でCO2をへらそう事業」を展開しています。この事業は、世帯毎に具体的な省エネ行動の実践を「宣言」するもので、きらボ様とは発足時からのお付き合いです。学生の皆さんは駅頭での活動や戸別訪問等を通して、いかに市民に理解していただけるかを自ら考え、取り組ま

れています。その成果が、38,000世帯を超える省エネ宣言となり、市民の省エネ意識醸成につながっています。

今後も学生の皆さんとの活動を楽しみにしております。より一層、連携を深めていただければ幸いです。

中村 裕（公社）学術・文化・産業ネットワーク多摩 アドバイザー

中央教育審議会の答申を受け、文部科学省が平成25年8月に大学教育改革について発表しました。予測困難な時代、成熟社会で答えのない問題に解を見出す能力を大学生に要請しています。その為、教室外学修、社会体験活動、PBL（課題解決型学修）なども推奨しています。ボランティア活動もまさにこれらにあたりますが、単なる活動ではなく、単位化、講義にまで昇華することが求められています。きらボの活動も、学生の自発的意欲を大学が汲み取り、体験としても地域貢献と

しても意義ある活動を重ね、地域から評価されています。ネットワーク多摩も創立以来10年、学生教育ボランティア活動で地域小中学校に授業、行事、クラブ活動を補助し、明星大学もきらボを中心に毎年多くの学生が参加し、小中学校から感謝され、先生の指導のもと、得難い経験をしています。ボランティアは、地域から期待される重要な施策となり、将来の人材を育成する役割をきらボは担っています。

「センター職員としての思いから」

「いわきのあの篤い三日間」

名取淳（次長）

夏の暑い盛りに学生 50 人とボランティア活動を体験しました。活動の三日間は昼夜問わず熱の入ったものでありました。黙々と活動を行うとともに、地元の方とのコミュニケーションも欠かさず、自分たちの得た者も大きかったであります。若者が集まれば夜は長くなるでしょう。同じ釜の飯を食べ、共同作業を行い、自分たちと異なる世界の人たちと一緒に活動をする。これは、社会貢献としてのボランティア活動であるとともに、若者には成長のための貴重な体験の機会となります。センターを立ち上げて 5 年、着実にボランティア精神が根付き、広がっています。更なる発展のために皆様方のご助力をよろしくお願いいたします。

「健康・真面目・努力」

吉田雅行（主幹）

ボランティアセンターに着任して早 3 年の月日が経った。学生と一緒にボランティア活動をする中で、いろいろなことを学ばせていただき新しい発見もあった。ボランティアは先ず身近なことから無理のない範囲で継続して行うことがもっとも大切なことを実感した。市内のあらゆるイベントに学生と共に参加していると、毎回いろいろな方が声を掛けて下さる。「明星さんにはいつもお世話になっています。市も若い皆さんが参加してくれるとますます活性化していきます。・・・等々」このように感謝の言葉を掛けていただくと学生はすごく励みになり、ボランティア活動を継続しようとする気持ちになるのである。私はこの 3 年間学生を見ていて、本学の学生は「ボランティア活動が本当に好きだ」ということが分かった。その根底にあるものは、本学苑の学訓である「健康・真面目・努力」であろう。私はすばらしい学生に恵まれ、地域のために貢献できることをありがたく誇りに思う毎日である。

「きらボ」

畑野 理美（主任）

2008 年 5 月のボランティアセンター開設から担当になり、もう 5 年がたちました。当センターの愛称は、明星の星にあやかって「きらきらボランティアセンター」略して「きらボ」。小さいながらもきらりと輝くボランティア活動を支援することを目指しています。学生一人ひとりの優しい気持ちや柔軟な感性と問題関心を大切にしながら、一人でも多くの学生がまず身近な社会に向かって貢献するというチャレンジ精神の涵養を支援しています。でも、学生を支援・応援しながら、一番成長できたのは自分自身だと思います。一緒に活動することの大切さを知り、励まされることの喜びを知り、増々活動が、このお仕事が好きになりました。色々な方にお会いでき、卒業生も各地で活躍しています。きらボの輪が増々広がっていくことを願っています。

「ひまわり」

川端伸哉

みなさまがボランティア活動を通してたくさんの実を摘むとともに、笑顔を持ち帰っていただけてます。かつて私も学生時代はボランティア活動をした経験もあり、本当に勉強させていただいたものです。5 周年を迎え、いろんな人間がいる中で、どのように種をまき、どのように花を咲かせ、どのように実を摘んでいくか、ただ待つということではなく、自分から提案をし、一緒に考えていく過程は本当に正解はありません。改めて、『あ～すればよかった』と後悔するよりも、『とにかくやってみよう』とチャレンジ精神を忘れずに、たくさん笑顔が開ける【ひまわり】が増えることを期待しつつ、今後も支援していきたいと思っております。

「ボランティアセンターの主要行事」(写真で紹介)



ボランティアセンター設立一周年記念シンポジウム



学内にてエコキャップ回収



東日本大震災被災者支援募金活動



第4回いわきサンシャインマラソン



環境フェア



いわき明星大学との合同ボランティア研修



市民のつどい



リレー・フォー・ライフ

「ボランティアセンター5年間の記録」

	月	日	
平成20年度	5	12	ボランティアセンターオープン 大学会館 2階 22-203
	6	3	学内ボランティア団体との面談開始（～25日）
		9	「Idear 研究会」ペットボトルキャップ回収開始
		18	「ノートテイク講習会」実施開始（年2回） / 講師 多摩市要約筆記サークル
	10	2	2008「夏の学生ボランティア活動報告会」開催/助言者 枝村珠衣氏（市民活動センターたちかわ）
	11	1	きらボ通信創刊号発行
		11/1～3	「きらボのお店」で星友祭参加。
		4/6～4/17	「昼休みミニ講演会」開催開始（年1回）
		25	「ボランティアセンター設立1周年記念シンポジウム」開催/基調講演 山崎美貴子氏（神奈川県立保健福祉大学学長、東京ボランティア・市民活動センター所長）
	平成21年度	6	29
6/29～7/3			「学生ボランティア活動紹介」開催開始（年1回）
10		12	2009「夏の学生ボランティア活動報告会」/助言者 小林祐子氏（調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター副センター長）
11/1～3			星友祭参加。「きらボのお店」
		23	手話講習会開始
平成22年度	6	30	防犯ボランティア隊MCAT結成/日野警察・日野市役所届出
	10	12	2010「夏のボランティア活動報告会」/助言者 鹿住貴之氏〔JUON（樹恩）NETWORK〕
		31	星友祭参加。「日野わーく・わーく」「日野療護園」出店。
	1	28	「感謝のつどい」開催開始（年度末最後の授業日の放課後：きらボにて）
平成23年度	4/2～3/11		1年間毎月11日、東日本大震災被災地支援募金活動実施。/日野社記福祉協議会と協力。高幡不動駅
	5	12	第1回「東日本大震災ボランティア活動報告会」実施
	6/13～17		東京都東村山福祉園「きらボ展 アートだよ、全員集合！」
		28	第2回東日本大震災ボランティア活動報告会
	8/26～27		いわき明星大学との合同「災害ボランティア体験」
	10	4	2011「夏のボランティア活動報告会」/助言者 神崎愛子氏（シャンティ国際ボランティア会）
	10/28～30		星友祭参加。「きらボのお店」（「日野わーく・わーく」「日野療護園」「日野市環境保全課」出店。
3/7～8		いわき明星大学との合同ボランティア活動（いわき）	
平成24年度	4	28	「被災地支援のあり方シンポジウム（3.11から1年いまだ被災地支援に望まれること）」開催
	8/28～30		いわき明星大学との合同ボランティア研修（いわき）
	10	16	2012「夏のボランティア活動報告会」/助言者 吉田真也氏（東京ボランティア・市民活動センター）
	2/9～11		いわき明星大学との合同ボランティア研修（いわき）
	3	11	東日本大震災被災地支援募金活動実施

学外でも認められるサークル活動

～感謝状・助成金～

年度	感謝状	受賞団体	年度	助成金	受賞団体
平成21年度	秋の交通安全運動への協力	ボランティアセンター	平成20年度	第8回ソニーマーケティング 学生ボランティアファンド	ひまわり
平成22年度	APEC首脳会議開催に伴う警備協力	MCAT	平成21年度	学生ボランティア団体助成 第9回ソニーマーケティング 学生ボランティアファンド	めばえの会 あすなる
平成23年度	地域安全運動	MCAT	平成22年度	学生ボランティア団体助成 学生ボランティア団体助成	まめ ピーボーズ
平成24年度	3.11を忘れない義援金活動	ボランティアセンター	平成23年度	第11回ソニーマーケティング 学生ボランティアファンド	レインボーサイン
	地域安全運動	MCAT		学生ボランティア団体助成	ひまわり
	「リサイクル・ブック・エイド」への協力	ボランティアセンター	平成24年度	第12回ソニーマーケティング 学生ボランティアファンド	N.G.I (ネットワーク多摩)
	65周年記念感謝状(東京都共同募金会)	明星大学		学生ボランティア団体助成	MCAT
	春の交通安全運動への協力	MCAT		東京市町村自治調査会	SMILY、大道芸団マアム MCAT、めばえの会、 レインボーサイン

～最近の出来事～

「学生による地域貢献活動団体助成金～学生の皆さん、皆さんの活動を多摩地域のまちづくりにつなげてみませんか～(東京市町村自治調査会)」にて、当大学からスマイリー・大道芸団マアム・MCAT・めばえの会・レインボーサインの5団体が選出されました。そして、平成25年3月15日に府中多摩交流センターにて東京都市町村自治調査会助成金活動報告会が開かれました。

平成25年3月22日にMCATが日野警察署長から寸劇による振り込め詐欺被害防止活動に対して感謝賞を授与されました。



表彰



日野市民大ホール 振り込め詐欺防止寸劇

第4回 いわき明星大学との合同ボランティア研修

本学ボランティアセンターでは、一昨年の8月から年2回、福島県いわき市に所在するきょうだい校のいわき明星大学と合同で、同市の復興支援活動を学生の協力の下、実施しています。

今回は下記のとおり、いわきサンシャインマラソンのボランティア活動を行いました。当日は晴天に恵まれ、マラソンランナー約9200名、ボランティア参加者約500名で、盛大に行われました。大震災から2年になろうとしています、被災

地の完全復興にはまだまだ時間がかかります。しかし、「日本の復興をいわきから」というキャッチフレーズを掲げ、第4回いわきサンシャインマラソン大会が成功裏に実施されたことは、多くの被災者に勇気と希望を与えました。

この大会にボランティアとして本学学生が参加できたことは、学生自身がこれからもボランティア活動を取り組む上で、誇りと自信につながったことと思います。

日程 平成25年2月9日・10日・11日 2泊3日
 参加者 学生29名（内いわき明星大学生9名）、引率教職員6名
 内容 1日目（9日）

9:00 明星大学出発、13:00 いわき明星大学到着、学生食堂で昼食。13:40 学内見学
 （①放射線測定室/科学技術学科主任 佐藤健二教授、②双葉地区3高サテライト校舎見学、③檜葉町小中学校、青空園(学童)の校舎見学）、仮設住宅及び被災地を視察、いわき明星大学の学生と交流会。

2日目（10日）
 いわきサンシャインマラソンのボランティア活動に参加。2班に分かれ以下の係りを担当。

1班「表彰式係」、2班「荷物返却係（フルマラソン）」。

3日目（11日）
 午前中、甚大な被害から見事復興したアクアマリン福島を見学、13:00 小名浜出発、17:00 明星大学到着、解散。

レクチャーを受ける学生



放射線量測定室見学



活動前の集合写真



表彰式係の打合せ



完走お疲れ様でした



学生の活動現場から

Star Shops Supporters

～学生から広がる空間づくりを目指して～

島崎 紗耶加（教育学部 教育学科 3年）

明星大学唯一のカフェである「Star☆Shops（スターショップス）」をご存知でしょうか。

「Star★Shops」は日野市を中心に事業をしている NPO 法人「やまぼうし」の事業所の一つで、大学の学生・教員・職員・近隣の住民の方々と一緒に、より居心地のよい空間を作り上げていこうという意味で「進化型カフェ」をコンセプトに営業しています。

私達 Star Shops Supporters（スターショップスサポーターズ）は「Star☆Shops」のサポートをするサークルとして平成24年に設立しました。もともとこのサークルは、学生の「学生カフェを作りたい！」という思いから「Star☆Shops」が出来たことが始まりです。当時は学生の様々な企画が持ち込めるような創造的空間にするための学生プロジェクトとして自立と体験Ⅱ「サマー

スクール」や理工学部主催の「夏休み子ども科学体験教室」といった活動を行っていました。サークル化後は、それらに加え他サークルや他団体の方と共にライブカフェやナイトカフェといったイベントを行っています。プロジェクトとして活動していた当時と比べ、サークル化されてからの方がより活動の幅が広がったと感じています。

今年度からは今までのイベントに加えてお誕生日カフェというイベントも企画し始めました。今後は私達が企画するだけでなく、より多くの学生の要望も取り入れた企画や学生の企画実現サポートも行っていけたらと考えています。又、イベント企画に加えてカフェの移動販売や日野市民フェアへの出店もしており、より多くの学生や教員・職員・地域の方々が気軽にカフェを利用してくれるようこれからも前進していけたらいいな、と思っています。



☆ Star☆Shops 前（12号館1階）にて



クリスマスナイトカフェ

センター活動報告☆

ここでは2012年10月以降の本センターの主な活動と、ボランティアセンター団体登録の状況について報告します。

2012年10月からの主な活動

月	日	行事等
10	1	来室：カタクリの会
10	3	ノートテイク練習会 参加者4名
10	5	PCテイク練習会 参加者4名
10	9	来室：緑を愛する会（佐伯様）、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会（高岡正）、全国要約筆記問題研究会
10	10	来室：日野市青少年委員会 手話講習会 参加者8名
10	11	来室：ひの社会教育センター
10	12	来室：日野市都市計画課 日野療護園
10	15	来室：カタクリの会
10	16	2012夏の学生ボランティア活動報告会開催（27号館 プレゼンテーション室）コメンテーター 吉田真也氏（東京ボランティア・市民活動センター）参加者 学外15名 学内80名。交流会 50名
10	19	来室：東京都治安対策
10	22	来室：日野市企画部国体推進室 多摩療護園 家庭倫理の会日野市
10	23	来室：帝京大学
10	24	手話講習会 参加者4名
10	26	来室：日野市環境保全課
10	29	来室：東京市町村自治調査会
10	30	来室：家庭倫理の会 すずかけ
10	31	もみじ祭り実行委員会
11	2	来室：杏林大学
11/2～11/4		星友祭 出店「きらぼのお店」（日野市社会福祉協議会、リレー・フォー・ライフジャパン、日野わーくわーく、七生福祉園、日野市環境保全課、日野療護園、はくちょう、すずかけの家、光の家と協力）
11	6	来室：創価大学
11	7	手話講習会 参加者6名、来室：子どもへのまなざし、日野市青少年委員会
11	10	MCAT、市民祭りへ参加
11	20	来室：種まきの会
11	21	東京市町村自治調査会、日野市選挙管理委員会@
11/23～11/24		MCAT、高幡灯路まつりへ参加（両日、各18名ずつ参加）
11/24～11/25		リレー・フォー・ライフ in 日野（参加者：39名）
11	25	MCAT、市内清掃へ4名参加
11	28	ボランティア活動単位認定について
11	29	I MUとの合同ボランティア研修 について合同打ち合わせ /いわき明星大学ボランティアセンター 来室：リサイクルネットワーク、

12	5	手話講習会
12	7	来室：エクセルサービス
12	11	来室：ナジック
12	11	学生ボランティアグループ会議（参加団体9団体、15名）
12	12	手話講習会クリスマスパーティー、来室：福島県けんなん自動車学校
12	18	東京都治安対策室主催シンポジウム参加
12	25	来室：多摩療護園
12	28	来室：日野市環境保全課
1	8	来室：日野市子育て課
1	11	来室：福島県けんなん自動車学校
1	22	来室：日野市環境保全課
1	23	来室：NPO法人 あるく 自律を目指す会 学生ボランティアグループ会議（参加者：12名）
1	25	第5回運営委員会
1	28	2012感謝のつどい開催（参加者：学外5名 学内50名）
1	29	手話ランチ&講習会（参加者：6名）
1	30	来室：リサイクルネットワーク
2	1	養育家庭ボランティア活動報告会（参加者：学生8名 他3名）
2	4	来室：日野市環境保全課
2	7	来室：日野市総務部防災安全課
2	12	来室：日野警察、ナジック
2	13	来室：日野市青少年委員
2	14	来室：エクセルサービス
2	25	来室：日野市環境保全課
2	26	手話ランチ（参加者：5名）
3	1	来室：日野市国体推進室
3	4	新入生歓迎会（参加者：学生12名 職員3名）
3	5	来室：練馬区障害者通所施設合同運動会実行委員会
3	7	来室：ネットワーク多摩
3	8	MCAT 明輝荣誉賞 特別賞受賞
3	11	東日本大震被災地復興支援募金活動 京王線高幡不動駅改札前（参加者：16名）
3	12	来室：日野警察
3	13	ボランティア活動単位認定について
3	14	手話ランチ（参加者：4名）
3	15	東京市町村自治調査会「自主的な団体活動支援助成団体報告会」（参加者：16名）
3	16	MCAT、「春の交通安全市民のつどい」にて防犯寸劇披露
3	19	新入生歓迎会（参加者：学生7名）、第6回運営委員会
3	22	MCAT、日野警察にて感謝状授与
3	25	来室：日野警察
3	27	手話ランチ&講習会（参加者：7名）、来室：日野市環境保全課

3	28	来室：日野市環境保全課
平成 25 年度		
4	9	手話ランチ&講習会 (参加者：7名)
4	9	第1回学生ボランティアグループ会議(参加者：18名)
4	15	「土曜のひろば」来室
4/15~26		学生ボランティア活動紹介 (紹介団体：18団体 参加者：のべ194名)
4		手話講習会 (4/9, 4/17, 4/25 開催 参加者：のべ25名)
5	24	第1回運営委員会
5		手話講習会 (5/9, 5/15, 5/23, 5/29 開催 参加者：のべ25名)

◆ボランティアセンター登録団体 (2013年6月末現在)

学内	18 団体	1. 教育研究部 2. ボランティアサークル「めばえの会」 3. 初等教育研究会 どんこの会 4. ボランティアサークル「SMILY」 5. ひまわり 6. へき地教育研究会 7. 児童文化研究会「人形劇団まめ」 8. BUKAS 9. Star☆shops 10. 防犯ボランティア隊 MCAT 11. Rainbow sign 12. 緑地環境保全ボランティアサークル「クローバー」 13. NPO 法人フレンドシップキャンプ 14. Merci 15. 大道芸団マアム 16. N. G. I (ネットワーク多摩学生委員会) 17. むさし 100km 徒歩の旅 18. 養育家庭ボランティア「Cherish」
学外	103 団体	1~69 省略 70:知的障害者厚生施設 (通所) すずかけの家 (日野市南平) 71:ちーむ夢人間 72:NPO 法人 ACTION (武蔵野市境南町) 73:特定非営利活動法人 フレンドシップキャンプ (中央区築地) 74:公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 (新宿区大京町) 75:NPO. JRC ちびっこ龍馬元気の会 (高知県高知市帯屋町) 76:NPO 法人 CES 八王子生活館 (八王子市南町) 77:社会福祉法人 多摩養育園 (八王子市八木町) 78:介護老人保健施設 クローバー (日野市東平山) 79:社会福祉法人 東京援護協会 サルビア荘 (町田市凶師町) 80:特定非営利活動法人 花岡児童総合研究所 (三鷹市上連雀) 81:日野市立 はくちょう (日野市日野台) 82:日野市 少年学級 (日野市程久保) 83:社会福祉法人 同愛会 日の出福祉園 (あきるの市秋川) 84:国際ボランティア学生協会 (世田谷区宮坂) 85:虹のセンター25 (昭島市朝日町) 86:特定非営利活動法人ナイス (新宿区新宿) 87:Youth for 3.11 (杉並区南荻窪) 88:秋川北口会 (あきる野市秋川) 89:NPO 法人 陸前高田市から未来を考える会 (江東区南砂) 90:あきる野自然塾運営委員会 (あきる野市小川) 91:東京恵明学園 児童部 (青梅市友田町) 92:特定非営利活動法人リサイクルネットワーク (日野市多摩平) 93:(社) マザアス グループホームたまだいら (日野市多摩平) 94:緑を愛する会 日野 (日野市日野) 95:由木かたくりの会 (八王子市堀の内) 96:府中市発達障害児親の会 虹色てんとう虫 (府中市是政) 97:きらきら☆たねまきの会 (神奈川県相模原市緑区) 98:特定非営利活動法人子どもへのまなざし (日野市万願寺) 99:特定非営利活動法人あるく・自律を目指す会 (日野市) 100:若年認知症グループどんどん (川崎市麻生区) 101:相模原市自閉症児・者 親の会 (相模原市南区) 102:ASAP(あきる野市雨間) 103:自立ステーションつばさ

